定例市長記者会見録

日 時：9月25日(木) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、NHK、時事通信社

本日の案件は5件です。

1番目は「『BISHU FES.』の開催概要をお知らせします」についてです。

11月に開催する「BISHU FES.」の概要です。一宮市の繊維産業はBtoB（企業間の取引）が中心で、どうしても消費者と接する機会が少ないため、消費者にも尾州を知っていただこうと2023年から開催しています。第1回の2023年はTGC・東京ガールズコレクションを真清田神社で開催して話題になり、2024年は一宮市が舞台の映画『BISHU ～世界でいちばん優しい服～』の全国公開のタイミングと重なり盛大に開催しました。今回も目玉となるイベントをご用意していますが、これまでの市が中心となっていく形式の「BISHU FES.」は最終年度になります。

昨年は10月に開催しましたが、毛織物がメインですので冬物需要が高まる時期にやろうと、今年は11月に開催します。主だったイベントをご紹介しますと、まずは「新規デザイナー発掘プロジェクト」です。これはTGCと組んだ企画で、当日は公開コンテストを行います。審査員にTGCの方にも入っていただき、冒頭にはファッションデザイナー・大下彩楓（おおしたあやか）さんのファッションショーを開催します。大下さんは、岐阜県の出身で、これまでもいろいろなところでご一緒し、映画『BISHU ～世界でいちばん優しい服～』の撮影でも協力していただきました。2022年には装苑賞を受賞しています。装苑賞はかつて「山本寛斎」や「山本耀司」などの日本を代表するファッションデザイナーも受賞されており、大下さんにもこれから世界で活躍していただきたいと思っています。

そして「高校生ファッションショー」や「一宮コスプレランウェイ」「びしゅう産地の文化祭」「名古屋芸術大学作品展示」「タフティングワークショップ」を今年も開催します。新規イベントとしては「編み物ワークショップ」をi-ビル3階で、「BISHU Concert」をオリーナス一宮で開催します。七夕まつりの盆踊りでもご協力いただいたステキナトリオと凌花さんのほか、地域の音楽活動されている方々にコンサートをしていただきます。「京都芸術大学の『JES 一宮ビル アートプロジェクト』」も新規イベントで、駅前のラウンドアバウト前にできたJES一宮ビルの日本エコシステム（株）さんが京都芸術大学とお付き合いがあることから、参加していただくことになりました。

「BISHU FES. marcheⅢ」は60ものブースが出店します。「クラフトビアパーティX」では、NPO 法人志民連いちのみやの星野さんたちが中心となって、「いちのみや」にちなんで138席を用意し、皆さまに地ビールを楽しんでいただく企画になります。

「尾州を見て・触れて・買ってもらう」ということで、人間が生活を営む上で不可欠な三つの要素として「衣・食・住」と言われますが、「BISHU FES.」では、「ファッション」「食事」「アート」の「衣・食・美」で盛り上がればいいかなと思っています。

2 番目は『ふるさと納税』業務を産業振興課が行います」についてです。

一宮市としても本腰を入れていこうということで、担当部署を行政課から産業振興課に変えることにしました。ふるさと納税が始まった 2008 年当時は、税に関する担当課が総務部でしたので、総務部の筆頭課である行政課がふるさと納税の事務を行っていましたが、返礼品の開発などは、経済界に近い部署の方がいいだろうということで、2026 年度からは活力創造部の産業振興課が担当することになります。

2024 年度の実績は、寄付額の約 1 億円に対し、一宮市民が市外の自治体に寄付した流出額が約 14 億円で、差し引き 13 億円ぐらいは流出したことになります。ただ、単に 13 億円が流出しているのではなく、地方交付税制度で、流出した分の 4 分の 3 は基準財政収入額から引かれて普通交付税として配分されますので、10 億円以上のマイナスでも実質的なマイナスは 2 億数千万円ほどです。それでも金額的には大きく、マイナスに変わりはありませんので、やはり気合いを入れていかなければならないと考えています。愛知県内に多くある普通交付税の不交付団体だと、マイナス分は普通交付税で面倒を見てもらえずそのまま減収になります。そのような自治体であれば三重県四日市市のように大手広告代理店の OB を年収 1,000 万円の条件で採用しても元が取れると思いますが、一宮市はどうしても普通交付税で守られて、あまりがむしゃらでないところがありました。ただ、それでは駄目だと思います、このたび、活力創造部産業振興課に業務を移管して返礼品の研究開発にこれまで以上に力を入れていこうと考えています。

一宮市の返礼品の人気の順位は、件数順と金額順で変わってきますが、件数順では、1 番がお米で、次にいちご大福、オーダーメイド枕、ランドセルリメイク、ダッフルコートの順になります。金額順では、1 番がダッフルコートで、オーダーメイド枕、オーダースーツ、お米、ランドセルリメイクの順です。3 位のオーダースーツは、例えば、30 万円の寄付で 10 万円分の尾州のオーダースーツの仕立券が返礼されるもので、件数は少ないですが金額が大きいので、3 位にランクインしています。他にもいろいろ開拓してプッシュすれば、人気を博するものがあるだろうと、商工会議所を中心に経済界とともに動いていくことにしています。

3 番目は「健康支援アプリ『kencom (ケンコム)』・生活習慣病の発症リスクの予測機能がもっと便利になります・2025 年秋『みんなで歩活 (あるかつ)』を開催します」についてです。

健康支援アプリ「kencom」については、おかげさまで 9 月に利用者が 1 万ダウンロードを超えましたが、これをもっと増やしていきたいと思っています。市もいろいろなリクエストをアプリ開発の (株) DeNA さんをお願いしており、今年 2 月から 3 月にかけてのバージョ

ンアップでは、マイナポータルに蓄積されている健診データや医療データを「kencom」にダウンロードできるようにしました。これにより、マイナポータルでは過去のデータは5年しか遡りませんが、「kencom」にダウンロードしていただければ、人間ドックの数値が全て保管できるようになります。

今回新しくバージョンアップされるのは、分析・シミュレーションができる「ひさやま元気予報」です。これは九州大学と福岡県久山町が1960年代から行っている生活習慣病の疫学調査で蓄積したデータを基に、個人の健康診断データを入れると、あなたはこの病気にかかりやすいから気をつけてください、というようなことも分析してくれる機能が付いているものです。今までは「kencom」に、体重やコレステロールの値などの数値を手動で入力する必要がありますが、また健診の都度、数値を入れ直さなければなりません。それを自動的に読み込んでもらえるように、自動入力機能を追加します。9月30日からの運用で、この機能が追加されるとさまざまなデータ連携により活用の幅が広がるということです。大変楽しみにしています。

そしてウォーキングイベントとして「みんなで歩活キャンペーン」を実施します。登録して使っていただくとアプリ内でポイントを貯めることができ、そのポイントをamazonギフトカードや図書カードネットギフト、QUOカードPay、nanacoギフトなど、いろいろなものに交換できます。ぜひ、こうしたものをインセンティブとして、ウォーキングしてポイントを貯めながら、健康になっていただければという企画になります。

4番目は「10月1日から高校生世代の通院医療費の無料化が始まります・マイナ保険証の利用率、PMH導入の市内医療機関も拡大しています」についてです。

10月から高校生世代の通院医療費が無料化になります。マイナンバーカードをマイナ保険証としてだけでなく市が行う福祉医療の受給者証としても使えるようにする実証実験を、デジタル庁と組んで全国に先駆けて行っています。その成果もあってか、マイナ保険証の国民健康保険の利用率は全国平均と比べて高い数値で推移しており、ご利用いただいている皆さまに改めて感謝を申し上げたいと思います。

2024年3月にPMHの導入を、まず市民病院だけで始めました。これはマイナ保険証を提示すれば、わざわざ市が発行する子ども医療費受給者証を持ってこなくても助成を受けられるというものです。今では市内のクリニックや歯医者、薬局も協力していただける施設が増え、診療所では34施設、歯医者では22施設、薬局では28施設でマイナンバーカードだけで通院費などの医療費が無償化できるようになっています。

5番目は「(再周知) 窓口の受付時間を短縮します」についてです。

10月1日から市役所の窓口が午前9時から午後5時までに変更されます。窓口時間の変更については、直近では約20年前の合併時に変えています。それまで一宮市役所は8時45分スタートでしたが、尾西市役所と木曾川町役場は8時30分から窓口を開始していたことから、合併後の一宮市役所でも開始時間を8時30分に変更したのが最近の変更例です。その

前は1993年で、それまで土曜日の正午まで窓口を開いていたのをやめたときですので、こうした窓口時間に関わることは何十年に一度の改正ということになります。

西尾張地区では江南市とあま市でも10月1日から窓口時間を短縮すると伺っています。これは、働く人の確保ということで、金融機関でも支店で昼休みを入れたりするなど、いろいろな見直しが進められています。窓口の時間短縮だけを捉えるとサービスダウンとなるので、その分オンラインでの24時間対応や、予約した場合の特例など、サービスダウンにならないよう試行錯誤しながら、それでも方向性としては窓口時間を短くしていくということ、これからも考えていきます。

私からの説明は以上です。

質疑応答

■No.2『ふるさと納税』業務を産業振興課が行います

(記者)当初から行政課で行っていたのですか？

(市長)ふるさと納税が始まった2008年から一貫して、行政課で行っています。

(記者)今回、いろいろな課がある中で産業振興課に移管先を決めた理由を教えてください。

(市長)地元産品を広く市外の方に利用していただくことは、貴重な機会ですので、そうした観点から地元の産業界とのコネクションが強い活力創造部産業振興課に担当してもらうのがいいだろうと考えて、管理替えを行います。

(記者)現在、返礼品は何品目ぐらいありますか？

(職員)257品目です。

(記者)ふるさと納税の寄付額の目標はありますか？

(市長)2億円です。倍を目指したいと思います。

(記者)いつ頃までに？

(市長)まずは新年度の目標として、倍は集めたいと思います。

(記者)257品目から増やすことを考えていますか？

(市長)品目を増やすことは大事なポイントの一つだと考えます。最近よく言われるのは、モノ消費ではなくコト消費で、実際に一宮市に足を運んでもらって楽しんでもらうことです。体験型商品を返礼品に採用する自治体も増えていますので、開発していく余地はあると思います。産業振興課の職員が、その分野の企業といろいろと調整をしてくれれば、選択肢がまた増えるのではないかと期待しています。

(記者)ふるさと納税を担当している行政課の職員は何人ですか？

(職員)直接の担当は1人です。

(記者)産業振興課では何人ぐらいで取り組んでいく予定ですか？

(職員)今のところ何も決まっていません。

(記者)寄付額は増えているのですか？

(市長) ほぼ横ばいですが、増えてはいます。ただし、何百万円ずつ増えても、市外への流出額が2億円単位で増えています。いくら普通交付税で4分の3は面倒を見てもらえるからと言っても、4分の1は減っているわけですので、危機意識を持って何とかしていかなければいけないと思っています。